



# にぎわいをつくる 風景要素

江戸時代から交通の要衝として栄えていた三軒茶屋は、明治期に軍事施設が置かれたことから自然発生的に商店街が形成されました。その後、関東大震災の被災者の流入や戦後の住宅開発により人口が急増し、人を集める様々な機能を担うようになりました。

このような街の成り立ちを背景に整備された街の基盤や、商店街に建ち並ぶ店舗、そして街に訪れる人々によって、にぎわいのある風景が作り出されています。

こうしたにぎわいの風景は、街の顔や拠点として地域を魅力的にし、世田谷の個性を生み出します。

※参考・出典「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」

## STUDY

### 学ぶ・深める

#### 看板がつくるにぎわいの風景


にぎわいのある風景を眺めてみると、お店の看板や商店街のフラッグなどが見つかります。看板は、まちなかで必要な情報を提供してくれる重要な存在であり、にぎわいの風景をつくる要素の一つでもあります。

#### 素敵な看板をみてみよう！

ついお店に入りたくなる魅力的な看板とはどんなものがあるでしょうか？ 看板のデザインに注目して歩いてみると、一味違ったまち歩きが楽しめます。

<p><b>①情報</b></p>  <p>文字や図が整理され、すっきりとしてみやすい。</p>	<p><b>②文字</b></p>  <p>文字がとてシンプルで印象的。</p>
<p><b>③色彩</b></p>  <p>シンプルな色使い。</p>	<p><b>④大きさ位置</b></p>  <p>適切な位置に適度な大きさの看板を設置することで、効果的な看板になっている。</p>
<p><b>⑤素材</b></p>  <p>メッセージが伝わる素材選び。</p>	<p><b>⑥図・記号</b></p>  <p>視覚的に店の印象が伝わる。</p>

**+α 魅力的な店先**



茶系の色でまとめられた店先に草花が添えられ、店全体に潤いを与えている。

# イベントがつくる にぎわいの風景

「せたがやふるさと区民まつり」、「三茶de大道芸」、「世田谷区たまがわ花火大会」など、毎年恒例となった大小さまざまなイベントが、区内の各地で催されています。

多くの人でにぎわうイベントの風景は、地域に欠かすことのできない季節の風物詩として、認識されています。

**予告**



世田谷アートタウン 2019

## 三茶の大道芸



**日程** 令和元年10月19日(土)、20日(日)

**会場** 三軒茶屋駅周辺、キャロットタワー近隣商店街など

街のいたるところで一流のパフォーマンスや商店街の屋台、ボランティアによるユニークな装飾に出会えます。

三軒茶屋の街全体が劇場になり、たくさんの人が訪れる二日間。にぎわいの風景を探しに出かけてみませんか？

**お問い合わせ** 世田谷アートタウン事務局  
TEL 03-5432-1547(10月末日まで)  
FAX 03-5432-1559

**うままち世田谷 YABUSAME フェスタ**

**【開催延期】**

台風19号の影響により開催を延期します。  
開催についての詳細情報は、  
観光情報サイト「エンジョイ！SETAGAYA」  
(<https://www.kanko-setagaya.jp>)にて  
ご案内します。

**お問い合わせ**  
公益財団法人世田谷区産業振興公社  
TEL 03-3411-6715  
FAX 03-3412-2340

**世田谷区 都市整備政策部 都市デザイン課**

〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27  
電話 03-5432-2039  
ファクシミリ 03-5432-3084  
ホームページ [風景PRESS](#)

世田谷区 風景PRESS 06

2019年10月(第61号)

時間を旅する  
風景街歩きシリーズ

# 風景

PRESS



# 06

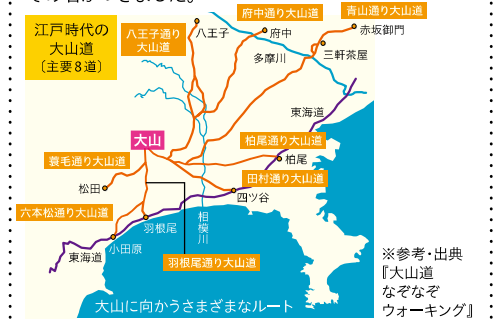
三軒茶屋

# 三軒茶屋の にぎわいの歴史

**大山詣の道** 三軒茶屋は、大山道の旧道と新道の分岐点にあります。

大山道とは、江戸の庶民が相模国大山に向かって利用した道を言います。大山の山頂には、五穀豊穡、商売繁盛で信仰を集める阿夫利神社があり、信仰と娯楽を兼ねて、たくさんの方が大山詣をしました。特に江戸中期以降、地域ごとに大山講と呼ばれる講(参詣をする信者の団体)をつくって順番にお参りするようになると、爆発的に参詣者が増えたそうです。また「大山に雲がかかると雨が降る」というので農民の信仰も厚く、干ばつの時には村の代表が水をもらいに何度も登拝しました。

三軒茶屋は、大山に向かう人々、あるいは大山から江戸に戻る人々が休憩する場所のひとつで、ここに「信楽」「角屋」「田中屋」の三軒のお茶屋が並んでいたことから、その名がつけました。

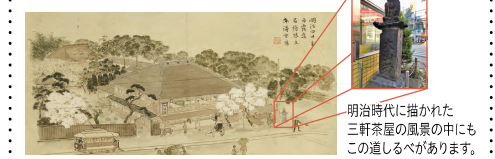


**今も残る道しるべ** 江戸時代の道のしるべが、今もまちの中に残っています。

世田谷通りと国道246号の分岐点の三角地帯、東急田園都市線三軒茶屋駅の世田谷通り口近くに、「大山道」と彫られた石の道しるべがあります。

明治時代に描かれた三軒茶屋の風景の中にも、この道しるべが描かれており、大山詣をする人々のランドマークとして存在していたことを伺わせます。この道しるべを見て、間違いなく三軒茶屋に着いたことを知り、茶屋で一服し、分岐の方向を確かめて旅立った、そんな風景を思い描くことができます。

ちなみに、この道しるべには分岐を示す「世田谷道 登戸道」「二子通」も刻まれています。道しるべを移設した際にその方向がずれて設置されたようで、現在は道しるべとしての機能は果たしていません。



**現在につづくにぎわい** 明治時代には、三軒から三軒茶屋の基盤がつけられました。

その後、戦後の住宅開発を経て、1996年には劇場がある商業施設キャロットタワーが三軒茶屋駅近くに完成、現在も歩行者天国や様々なイベントが行われる、世田谷区内のにぎわい拠点のひとつに発展しています。

# 江戸時代から続く **交通の結節点**

三軒茶屋は、江戸時代には大山道の旧道と新道が分かれる結節点でした。今でも、東急電鉄の田園都市線と世田谷線の乗り換え場所になっていたり、国道246号、世田谷通りと茶沢通りの交差点になっていたりするなど、人々が行き交う交通の要衝です。

TRAFFIC



交差点や三茶パティオなどでは、人と車が行き交うにぎやかな風景がみられます。



観光案内所にはイベントや街の情報を求めて人が訪れます。

昭和43年の三軒茶屋交差点。左が国道246号、右が世田谷通り。右端方向が世田谷線です。



# 三茶のランドマーク

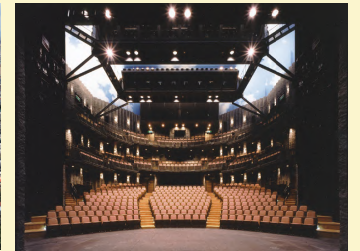
## キャロットタワー

三茶のランドマーク<キャロットタワー>には、店舗、劇場、展示や講座ができる会場、最上階には三茶を一望できるスペースがあります。劇場で人気の演目があると、演劇ファンが集います。



キャロットタワー

## LANDMARK



# なぜ三茶には人が集まる？

三軒茶屋には、多くの人が集う場所があります。人が集い、にぎわう街には、どんな風景の特徴があるのでしょうか。



# 集いのスペースいろいろ

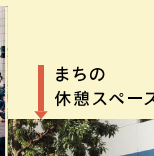
毎週日曜日の午後、茶沢通りは歩行者天国に！「ふれあい広場」でも、さまざまなイベントが行われています。大がかりなイベントがなくても、ちょっとしたスペースでにぎわいは生まれます。



ホコ天風景



街全体がイベント会場に  
茶沢通りのイベント風景



まちの休憩スペース



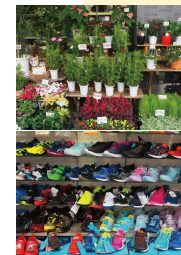
ふれあい広場でのイベント風景

## GATHERING PLACE

# つい寄りたくなる

## こだわりの店構え

ズラリと並ぶ商品は、魅力や迫力があります。つい寄りたくなる店舗デザインも、お客さんを呼び込むのに一役買っています。



## DESIGN

